



# 埋文だより

第50号

平成21年6月12日発行

## 悠久の歴史を秘めた田園風景

### 中津野遺跡



遺跡上空から金峰山を望む



中津野遺跡（南さつま市）は、薩摩半島の南西部、<sup>さつ</sup>摩半島の南西部、<sup>きん</sup>金峰山の麓に広がる田園地帯の中にあります。国道270号バイパス工事に伴い、発掘調査を行いました。遺跡は、台地の部分と河岸段丘面、低地の3つに分けられ、台地では縄文時代後期の住居跡1基が発見されました。

写真は遺跡北側の低地部分です。周囲は水田地帯であり、発掘調査でも古墳時代の水田耕作を思わせる土層の堆積状況を確認しました。当時の鋤や鍬、建築部材などの木製品が多く発見されます（次項に詳細）。

今年度も、引き続き発掘調査を進めていきます。

#### 目次

- ・悠久の歴史を秘めた田園風景 ..... 1
- ・平成21年度 かがしまの遺跡 ..... 2, 3
- ・本物の魅力 企画展 ..... 4
- ・シリーズ埋文豆知識⑩ 木器処理 ..... 5
- ・平成21年度 発掘調査予定遺跡位置図 ..... 6

# 平成21年度 **かごしまの遺跡** 発掘調査・整理作業情報

## 水田の泥に埋まる遺物 **調査予定** ～中津野遺跡～ (南さつま市) **10月～2月**

中津野遺跡の低地部分から出土した木製品では、古墳時代の農具類が注目されます。写真1は曲柄平鋏とと呼ばれる農具の一部で、柄をつけるための穴が



写真1 曲柄平鋏

あけられています。また、写真2は、長さがおよそ270cm、幅26cm、厚さ3cmほどあります。用途は不明ですが、ほぞ穴や切り欠きなどの加工痕が見られることから、建築部材の一部と考えられるものです。



写真2 建築部材?

## 解明進む戦国時代の城郭～続報～ ～虎居城跡～ (さつま町)

**発掘調査中**  
4月～8月

虎居城跡は、川内川激甚災害対策特別緊急事業に伴い、現在発掘調査を行っています。埋文だより第48号、49号では礎石建物跡や堀の跡などを報告しましたが、今回は多彩な出土遺物を紹介します。

堀の調査で、木簡(写真3)や漆器の椀(写真4)、竹製の編みかごとと思われるもの(写真5)のほか、高麗青磁を含む青磁、白磁、染付等の磁器類、瓦質土器、柱材なども出土しました。写真の漆器は、木質の部分が劣化して漆の膜だけが残っているものです。いずれも鹿児島県内では出土例が少なく、今後、文字の判読や図柄の調査など研究を進めていきます。



写真3 木簡 (赤外線画像)



写真4 漆膜だけが残った漆椀



写真5 竹製のかご (部分拡大)

## 縄文時代の三ツ星レストラン **発掘調査中** ～天神段遺跡～ (大崎町) **5月～3月**

天神段遺跡は、東九州自動車道建設に伴い、現在発掘調査を行っています。縄文時代早期の層から集石(写真6)や連穴土坑(写真7)が発見されました。



写真6 集石

集石は石蒸し(焼き)料理を、連穴土坑は燻製品を作るなど、調理のための施設ではないかと考えられています。上野原遺跡(霧島市)でも同じような遺構が見つかっています。



写真7 連穴土坑

## 道が語る、往来の歴史 **報告書刊行** ～柿木段遺跡～ (大崎町) **22年3月**

柿木段遺跡では、古代から中世にかけての道跡が見つかりました。この道跡は、現在の曾於郡大崎町の2つの集落(立小野と福岡)を結ぶ方向に延びており、当時の人やものの往来が想像されます。道跡は、時の流れとともに少しずつ移動したようで、幾重にも重なる状態で検出されました。

現在は、写真の手前側に農道が延びています。今後、これらを横断する形で東九州自動車道が建設されます。過去・現在・未来、それぞれの道が紡ぐ歴史に想いを馳せてみてはいかがでしょうか。



写真8 幾重にも延びる道跡

## 鹿児島県初の、石切場の発掘調査 **報告書刊行** ～柵城跡～ (いちき串木野市) **22年3月**

柵城跡は、南九州西回り自動車道建設に伴い、平成12年度～15年度に調査が行われました。中世の山城のほか、中世から近世にかけての寺院や石切り場の跡などが明らかになりました。

特に注目されるのは、鹿児島県で初めて発掘調査された石切場跡(写真9)です。溶結凝灰岩の石切場として、深



写真9 石切り場跡

いところでは5m近くも掘り込んでいます。ツルハシやクサビなどの石切道具が出土しており、それらを使用した痕跡も残っていました。また、石切道具を修理したと思われる鍛冶遺構も検出されました。遺跡内には凝灰岩製の五輪塔や石垣(写真10)などが残っており、石切場で採取した石材を加工したのと考えられます。鹿児島県における石材の採取方法や流通範囲を探る上で注目されます。



写真10 遺跡内に残る石垣

# 本物の魅力

Uenohara Jomon no Mori, Kagoshima

当センターでは、「上野原縄文の森」展示館と協力して、県内各地の遺跡で出土した遺物等を展示しています。今年度も、3回の企画展を計画しており、これまでの調査で明らかにされた鹿児島県の歴史を紹介します。



第25回企画展

## 「新発見!かごしまの遺跡2009」 ～県立埋蔵文化財センター発掘速報展～

紹介する遺跡

7月18日(土)～11月29日(日)

**発掘調査** 鳴野原遺跡A地点、中津野遺跡、虎居城跡、天神段遺跡、宮ヶ原遺跡、川骨遺跡

**報告書刊行** 小中原遺跡、陣之尾遺跡、大津保畑遺跡、屋鈍遺跡、堂原遺跡、上水流遺跡、下ノ原B遺跡、中尾遺跡、荒田遺跡、桜谷遺跡、建山遺跡、市ノ原遺跡第3地点、前畑遺跡、領家西遺跡

企画展講演会

期日 8月9日(日)、9月12日(土)、11月3日(火)

時間 いずれも午後1時30分～午後3時

場所 縄文の森展示館1階多目的ルーム

講師 県立埋蔵文化財センター専門職員

発掘調査の成果を、調査担当者がわかりやすく解説します。



第24回企画展

## 「明らかにされた南薩の祈り」

4月18日(土)～7月12日(日)

平成18・19年度の発掘調査で1500年あまりの眠りから覚めた南摺ヶ浜遺跡。完形土器170点、鉄製品80点などのほか、南九州特有の立石土坑墓や薩摩半島では初めての発見となる円形周溝墓など、弥生時代後期から古墳時代にかけてのお墓の様子を紹介します。

出土遺物の中から17点が、文化庁主催の『発掘された日本列島2009展』に出品され、全国各地を巡回します。

## 『発掘された日本列島2009展』

東京都江戸 東京博物館

6月20日(土)～8月2日(日)

大阪府近つ飛鳥博物館

8月13日(木)～9月23日(木)

高知県立歴史民俗資料館

10月3日(土)～11月9日(月)

さくら市ミュージアム-新井寛方記念館-

11月20日(金)～12月27日(日)

安城市歴史博物館安城市民ギャラリー

1月16日(土)～2月28日(日)

# 先人の足跡を後世に残す「発掘調査報告書」

当センターでは、発掘調査と並行して計画的に出土遺物の整理・研究を進めています。平成20年度も、20遺跡(13冊)の発掘調査報告書を刊行しました。

当センターのほか、県内の図書館・郷土館等の施設でも閲覧できます。

「堂原遺跡」(鹿屋市)

「南摺ヶ浜遺跡」(指宿市)

「屋鈍遺跡」(宇検村)

「小中原遺跡・市箇遺跡」(南さつま市)

「領家西遺跡・天神平溝下遺跡」(鹿屋市)

「市ノ原遺跡第3地点」(日置市)

「西原段I遺跡・野鹿倉遺跡・建山遺跡」(曾於市)

「中尾遺跡・荒田遺跡・桜谷遺跡」(南さつま市)

「下ノ原B遺跡」(伊佐市)

「上水流遺跡」(南さつま市)

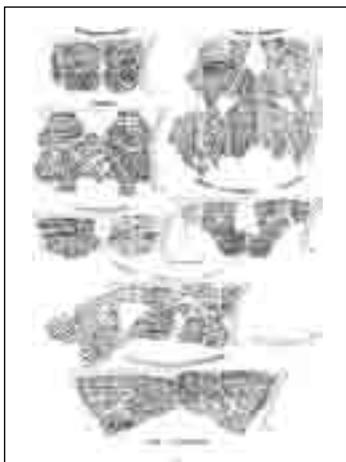
「大津保畑遺跡・小園遺跡」(中種子町)

「陣之尾遺跡」(伊佐市)

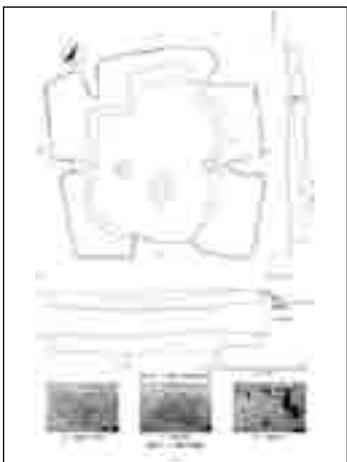
「前畑遺跡」(鹿屋市)



市ノ原遺跡第3地点



上水流遺跡



下ノ原B遺跡



屋鈍遺跡

# 埋文豆知識 10

## 出土遺物の処理その1

## 「木器」

発掘現場で体験活動に参加する子どもたちに、何を見つけないかたずねると、ほとんどの場合「土器」か、<sup>やじり</sup> 鎌や<sup>せきま</sup> 石斧などの「石器」と答えます。でも、日本は温暖で、豊かな緑や水に恵まれた国です。太古の昔から、狩りをしたり住まいを作ったりするために木を利用していたはずですが、それなのに、「木器」が出土することはあまりありません。なぜでしょう。



農具を作る人（イメージ）



柱材出土状況（虎居城跡）  
水がわき出るようなところは、木が腐りにくいのです。

### 微生物に弱い木器類

ごはんやパン、肉などをそのまま放置しておくと、そのうちカビが生えてきます。それでもさらに放っておくと、<sup>びせいぶつ</sup> 微生物のはたらきで腐ってしまいます。

木器や建物の柱、衣類などもこれと同じで、長い年月の間に、土の中の微生物のはたらきで腐ってしまいます。これに対して、土器や石器は腐りません。そのため、そのまま残ってしまうわけです。

### 次の世代に引き継ぐために

木器などを腐らせてしまう微生物は、酸素（空気）と水が大好きです。このうちどちらかがなくなると、はたらきが弱くなってしまいます。田んぼの泥の中や、豊富な地下水のおかげで常に水浸しになっている場所などでは、酸素（空気）が通りにくく、木器が完全に腐らずに残っているのです。

それでも、何百年、あるいは千年以上もの間土の中に埋もれたままですから、木の内部はかなり傷んでいます。乾燥して、内部に含まれている水が蒸発してしまうとひび割れが起きてぼろぼろになってしまいます。これを防ぐために、専用の装置で、時間をかけて、保存するための処理をしています。



出土した木器の表面  
カッターナイフで切れるくらい、軟らかくなっています。

### 遺物を保存処理するための機器①

#### PEG含浸装置

出土した木器を長期間保存するために、当センターでは、主にポリエチレングリコール（PEG）という<sup>じゅし</sup> 樹脂を使って処理しています（PEG含浸法）。この樹脂を、およそ60℃に保温した水槽の中で、1年以上の時間をかけて細胞の中までじっくりと<sup>しんとう</sup> 浸透させていきます。木器内部の水分をPEGに置き換える作業です。このほかに、お菓子などに使われる甘味料（ラクチトースやトレハロース）を使う「糖アルコール法」や、<sup>こお</sup> 凍らせて真空状態の中で乾燥させる「真空凍結乾燥法」などいろいろな方法が開発されています。



処理済みの木器（糖アルコール法、京田遺跡）



PEG含浸装置と処理の様子

